

(仮称)石狩市都市骨格方針素案説明会

令和元年 8 月 21 日(水)18:00～19:20 花川南コミュニティセンター

参加者 12 名

【質問】

今でも札幌から水道水を買っているのか。

【回答】

現在は買っておりません。

以前は、札幌から水道水を買ひ、花川北を中心に給水していた時期はありましたけれども、現在は水源が当別ダムになり、旧石狩市内全域に給水しています。

【質問】

水道料金が下がることはないのか。

【回答】

水道料金については、直接の担当でないのでお答えできませんが、経営状況やインフラの更新などの収支バランスを考えながら定期的に検討されていると思います。

【質問】

今の話の関連で、石狩湾新港の工業用水道の水源は当別か、それとも地下水か。

以前は地下水だったはずだが。

【回答】

工業用水道については、直接の担当ではないので、お答えできない部分もありますが、水源としては当別ダムではないです。

豊平の方から引っ張っているルートがあり、現在、井戸を使っているかどうかは分かりませんが、以前は井戸の使用もあったかと思います。

【意見】

所管ではないとのことだったが、石狩湾新港の工業用水道の需要が増え、地盤沈下が心配されており、それで聞きたかった。

【質問】

13ページの「総合交通体系の方針」と、それから23ページの「誘導施設の設定及び都市機能の配置の方針」について、少し説明をいただきたい。

総合交通体系の方針の中で、これから高齢者が増えていくとのことであり、今、75歳以上の方が多いとなると、交通の体系というのはそぐわないのかなと感じる。

23ページの行政施設の配置方針に丸がついているのは警察署のことだと思うのだが、最近、交通事故などがかなり多いので、できるだけ早く誘致して石狩市を盛り上げていた

だきたい。

それと商業施設について、3,000平方メートル以上の施設を建設したいとのことだが、これも高齢化に伴い利用者がどれだけいるのか若干疑問なのだが、いかがか。

【回答】

高齢化が進み、免許返納などをご検討いただかなくてはならないことも増えてくるという考えの中で、高齢になって車が使えなくなっても、健康を保ちながら、歩いて暮らすことができるまちに、というのがこの計画で、生活ができるそれぞれの地域を公共交通のネットワークでつなげ、総合交通体系の中で具体的に何をどうするか、細かく書いてはおりませんが、車を手放しても、楽しく地域と密着した生活ができるように、という思いを込めています。

具体的な公共交通の内容については、他部署になりますが、公共交通網形成計画の中で、今後のあり方が検討されていくと考えています。

それと23ページの都市機能誘導区域についてですが、市役所の向かいの広い土地に、例えば、バス路線が集まる複合ビルが建ち、交通結節点ができるというような思いを込めて、こういう書き方をしています。

【意見】

よく理解できたので、これから少子高齢化がどんどん進んでいく中で、高齢者に優しいまちづくりを進めていただきたい。

【質問】

骨格方針ということで基本計画だと思うのだが、この計画に基づく実施計画というのは、どのようなスケジュールでつくられるのかということと、この骨格方針では具体的にどう動くのか見えてこないのので、令和2年からの20年間で具体的な動きを検討しているかどうかお聞きしたい。

それと、先ほどの話と関連するが、歩いて暮らすということで、大型店を含めたところを24ページに赤印をつけているが、裏づけがあつての利便施設だとは思うのだが、こんな言い方は失礼だが、はっきり言って人はいなく、そこまでだれが歩いていくのか、というところの考え方が少し甘いのかなと思う。

今、花川南、北、樽川、緑苑台などに大きなお店があるが、だんだん縮小されてきており、客として心配している。

立派な計画をつくることは結構だし、それに対し市民が一丸となって進んでいくことも結構なのだが、絵に描いた餅で終わらないよう、もう少ししっかり検討していただきたいと思っており、特に実施計画についてどう考えているのかをお聞きしたい。

【回答】

厳しいご意見ありがとうございます。

都市骨格方針はおっしゃるとおり都市整備の方向性を示した基本計画であり、1ペー

ジをご覧いただきたいのですが、都市骨格方針の位置付けということで、仮称石狩市都市骨格方針という4つの計画の下に都市整備に関する個別計画があります。

この個別計画の中で、市民の皆さんの意見を聴きながら具体的な計画をつくっていくという順番です。

それから、歩いて暮らすということに関し、考え方が甘いのではないかということについてですが、まず見ていただきたいのが資料編の90ページです。

90ページの資料の上の図で、商業施設であるスーパーの徒歩圏を800メートルとしており、スーパーの位置を緑色で記し、赤い丸が徒歩圏を表しており、下の図はコンビニや商店で徒歩圏は500メートルです。

91ページは、ドラッグストアやホームセンターの徒歩圏を表し、92ページではそれらの買い物施設をまとめた徒歩圏を表しており、赤枠で囲ったところが歩いて動ける範囲です。

また、買い物施設だけではなく、医療施設や福祉施設なども次ページ以降で徒歩圏を表しています。

それと、90ページに戻っていただいて、平成27年の国勢調査による条丁目ごとの人口を色付けして表しており、1平方キロメートルあたり4,000人以上のところを目安とし、色分けしています。

将来的にはこの数字が減っていくことになるので、87ページなどを見ていただくと、2015年、2020年から2030年にかけて、赤色が少しずつ黄色になっていますが、これは人口が減っているところで、国勢調査をもとにした国の推計です。

スーパーなどは人口が減っていくと撤退ということも想定されますので、少しでも人口密度を保ち、それにより歩いて暮らせるまちを担保するという考えにつながっています。

そのためにどうしていくか、先ほどの立地適正化計画の中でも説明したとおり、石狩市は新港地域などが再エネの集結地になっており、新しい企業もどんどん入ってきていますが、すでに2万人ほどの就業者がいる中で、市外の方々の多くは、石狩の市街地を飛び越えて、新港に通っていると思います。

そういった方々を少しでも市内に住んでもらえるような取り組みにより、市街地の人口密度をまずは保ち、歩いて暮らせる、みなさんが安心して暮らせるようベースをつくっていきたい、ということをイメージして、この計画をつくっています。

ですから、目指す都市像を、石狩湾新港ということで、国際物流、エネルギー港湾都市ということで掲げており、以前は物流一辺倒だった新港地域が新しい地区となっており、その方針を受け、今後、個別計画に反映させていき、少しでも国の人口減少の予測に反し、人口が減らないような石狩市を目指していきたいというところです。

【市説明】

ただ今の説明に補足いたします。

もう一度資料の1ページをご覧いただきたいと思います。

道路、公園、下水道、住宅などの都市整備に関する個別計画ですが、住宅については民間ベースで、民間の活力を活かしていきたいと考えています。

道路、公園、下水道は市が整備しますが、別の視点で、都市計画で建物の建て方のルール、用途地域と言いますが、建物の高さですとか大きさを決めるルールを見直すことで、今まで2階建てしか建てられなかったものを3階建てにするなど、花川南地区において、この計画の中で方向性として検討してはどうか、ということ盛り込んでいます。

次に12ページをご覧いただきたいと思います。今の説明で触れました、まさに都市計画の部分を意識した花川南地区の方針で、地区特性を踏まえ、土地の高度利用を視野に用途地域を見直し、住環境の悪化というデメリットを、上乗せ規制の地区計画をかけることにより、緩和をコントロールします。

花川北地区や、市役所周辺の花畔地区、緑苑台地区、樽川地区については、用途地域に地区計画をセットでかけてコントロールしていますが、花川南地区では、一部の地区以外は、ほとんど地区計画はかかっておりません。

今後、この方針が決まった後に行わなければならないのは、花川南地区をどうしていくか地域の方々の意見をお聞きすることです。

その中で、現在、2階建てしかできないものを3階建てにすることにより、車庫を半地下ではなく道路とフラットにでき、そして2階、3階を居住エリアとするということで、実は今の制限は、札幌の近隣地区と同じで、その地区にできないことを南地区にできるようにすることにより、新港に通っている若い人達も移り住んでもらえるのではないかと考えています。

ただ、メリット・デメリットがありますので、来年度以降、来年、再来年とかけて議論していくこととなりますが、ゆっくりしていると今の建替え需要に対応できない可能性もあるので、できるだけ早く、地域の方々と議論を始めたいと考えています。

【質問】

今の話を聞くと、骨格方針のあとに個別計画を立てると1ページに書かれているという説明であったが、個別計画についてもまた、この骨格方針と同様に地域の意見を聞く機会を設けると受け取ったが、そういう理解でよいのか。

【回答】

個別計画については、最低限パブリックコメントですとか、必要に応じて地域の説明会なども行っていますので、これまでと同様の形で進められると思っていただいて結構です。

【質問】

道路の整備計画などの個別計画は、10から20ページくらい冊子になるのか。

【回答】

道路の計画で1冊というのはないかもしれませんが、方向性としてはこの方針をベースに、何ヵ年計画などをつくっていきますので、計画がなくインフラ整備を進めるということはずがないため、そういった部分ではこれまでと同じです。

【質問】

仕組みを聞きたいだけであって、この骨格方針に基づいて、道路や下水道などの整備計画を令和22年までにどういうスケジュールで進めていくのか、それとも、その都度優先順位を決め、市の予算の中で進めていくことになるのかを質問している。

【回答】

それぞれのインフラ計画があり、改定の時期にどういった方針で改定するのか、といったときに、この都市骨格方針をベースにつくり直すということです。

【意見】

この都市骨格方針で、今まである計画が大きく変わるという性格のものではないということであれば、この質問は終わりにする。

石狩市には新港地域があり、非常に希望の持てる市だと思っており、そういった意味で頑張っていかなければならないが、先ほどの都市計画の見直しも、制度をつくればいいというものではない。

今の石狩市民が、都市計画の変更に基づいてそれぞれ懐具合と勘案して、新たな投資ができる市民はいるかもしれないし、いないかもしれないので、やはり石狩市外の人達が市内に投資をしてくれるよう、新港の企業誘致と同じように、全国的に足を運んでPRするという活動はしていかなければならない、と思っている。

そうでないと「計画をつくりました」だけで終わってしまうので、市民の投資と、現在、市民でない人達の新たな投資というものを誘導することのできる計画にしないといけないと考える。

【回答】

ありがとうございます。

今おっしゃったような投資が図られて、商業施設ができたり、交通ネットワークが伸びたりすることにより、周りの住宅地も伸びるということは、私達もそのとおりだと考えていますが、なかなかそういったところも書けない状況です。

ただ、PRによって投資が図られるよう、計画に盛り込んでいきたいと思います。

(了)